

現在、日銀は利上げを行うことが極めて困難な状況にあります。これは、利上げがもたらす評価損や負荷が非常に大きいためです。今週は、**日銀の利上げがもたらす影響と、それに対する国内外の投資家の動向**について予測してみます。



## 長期金利と評価損の背景

日銀が**長期金利を0.1%引き上げる**ごとに、**2.9兆円**の長期国債の評価損が発生します。現在、日銀は**既に20兆円**の評価損を抱えており、これに加えてさらに評価損が増大することになります。

評価損は、日銀が保有する国債の市場価値が下落することによって発生します。金利が上昇すると、既存の低金利の国債の価値が下がるため、評価損が生

じます。

また、**短期金利の引き上げ**もまた大きな損失をもたらします。具体的には、**短期金利を0.1%上げる**ごとに、年間**5000億円**の損失が発生します。これは、**日銀の年間受取利息が1.5兆円**しかないことを考えると、非常に大きな負担となります。

## 利上げの制約

このような**損失の拡大を避けるため、日銀は利上げを行うことが極めて難しい状況**にあります。しかし、欧米の中央銀行が行うような国債購入の減額（量的緩和の縮小）も同様に困難な状況です。

### FRBや豪州中央銀行との違い

FRBや豪州中央銀行も一時的に債務超過になったことがありますが、それでも彼らの財務状況は日銀と比べて良好です。例えば、FRBの**年間受取金利は27兆円**に達しますが、**日銀はわずか1.7兆円**に過ぎません。この大きな差が、日銀の利上げや国債購入減額を一層困難にさせています。

## 投資家の反応とマーケットの期待

### 欧米投資家の期待

日銀の政策決定に対して、欧米の投資家や一部の日本の投資家は、利上げや国債購入減額を期待しています。





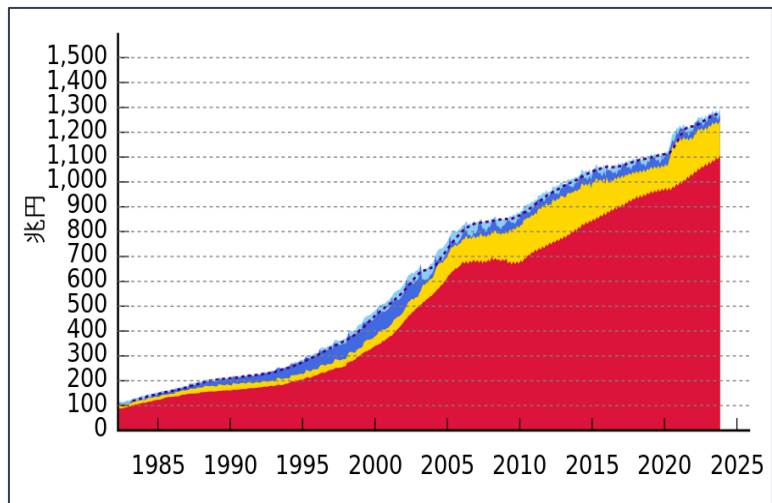
しかし、日銀がこれらの政策を実施すると、先述のような大きな負荷が日銀にかかります。もし日銀が期待に応えられない程度の政策変更しか行わなかった場合、マーケットでは失望感が広がり、円が大幅に売られる可能性があります。逆に、日銀が大幅な利上げや国債購入減額を行えば、それは円の非常事態宣言となりかねません。

## 中央銀行の債務超過と通貨の信頼

### 債務超過の影響

中央銀行が債務超過に陥ると、その発行する通貨の信頼性が大きく損なわれます。たとえ日本人が円を信頼し続けたとしても、外国人投資家は円を保有したり、決済に使用したりすることを避けるでしょう。

特に国際貿易においては、円の信頼が失墜すれば、取引相手がドル決済を要求するようになります。これは円の価値の低下（ハイパーインフレ）に直結します。



国債の推移(1982年4月以降)。

赤が内国債、黄色が短期証券、青が借入金、水色が一時借入金。

現在の日銀は、利上げや国債購入減額を行うことが非常に困難な状況にあります。**長期金利の引き上げは巨額の評価損を生み、短期金利の引き上げは年間数千億円の損失をもたらします。**FRBや豪州中央銀行と比較しても、日銀の置かれた財務状況は極めて厳しく、**欧米の投資家が期待するような政策変更は日本ではほぼ不可能**です。

このような状況下で、日銀は慎重な政策運営の舵取りを続けざるを得ません。同時に、投資家やマーケットは、日本の置かれた状況下での日銀の制約を理解し、冷静で現実的な行動をとることが重要です。もし日銀が判断を誤り、無理な政策変更を強行すれば、円の信頼は一気に失墜し、日本経済全体に深刻な打撃を及ぼす可能性があります。日本には、かつて巨額の赤字国債が紙くずと消え、多くの人が、全財産を失うという惨劇が起きた経験があります。万が一そのような状況に陥った場合にも、大切な財産を確保できるよう、早いうちから安全な場所に財産を避難させておくことが必要と言えましょう。

